



夢の実

佐賀大学理工学部同窓会会報

2005.10.1

No.7



「卒業生の活躍が 理工学部を発展させる」

理工学部長 中島 晃

佐賀大学理工学部は、1966年（昭和41年）4月に当時の文理学部を改組して設置され、来年2006年（平成18年）には創立40周年を迎えることとなります。当初、数学科、物理学科、化学科、機械工学科、電気工学科の5学科、入学定員僅か170名でスタートしましたが、その後工業化学科、土木工学科、生産機械工学科、電子工学科、建設工学科および情報科学科が増設されて11学科となり、平成9年4月の改組（学科統合）を経て、現在の7学科、入学定員490名に至っています。

この間、大学院の整備も着々と進められ、1975年（昭和50年）に工学研究科修士課程の設置、昭和58年に理学系3専攻が加わり、理工学研究科に名称変更、1991年（平成3年）に博士後期課程が区分制大学院として設置され、前期課程とも合わせ工学系研究科と名称変更、平成10年には生体機能システム制御工学専攻（独立専攻）が設置され、工学系研究科は、博士前期課程で186名、後期課程で30名の入学定員を擁する大所帯となっています。また平成7年には、留学生向けに英語で授業を行う「環境科学特別コース」が開設され、毎年、前期課程に3名、後期課程に7名の国費留学生のほか私費留学生も多数受け入れてきたところです。

このように理工学部は、先輩諸先生方の懸命な努力と佐賀大学に学んだ学生諸氏のお蔭で創立以来着実な歩み続け、大きく発展するとともに、13,000名になんなんとする卒業生・修了生の皆さんは、技術者や研究者、教員、公務員などとして産学官各界で広く活躍されており、御同慶の至りに存じます。言うまでもなく、大学の使命

は教育と研究を行うことにありますが、最近は社会貢献がもう一つの柱だとしてことさらのように叫ばれています。無論、大学がいろいろな形で地域や社会に貢献することは重要ですが、高等教育機関である大学の役割の中心は、有為な人材を育成し、社会に送り出すことであり、それが最大の社会貢献ではないでしょうか。創立以来40年近くを経て理工学部の第1回卒業生も還暦に近い年齢となり、ようやく社会各方面で活躍する卒業生の層の厚さと広がりを感じられるようになりましたが、大学の大衆化現象、若者の理工系離れ、少子高齢化社会の到来など、大学を取り巻く環境が年々厳しさを増している昨今、学生にさらに木目の細かい教育を施し、卒業生が社会で活躍し高い評価を受けるよう地道な努力を続けることが肝要だと思っています。

今、工系の学科を中心に取り組まれている日本技術者教育認定機構（JABEE）による認定審査の準備は、認定されれば卒業生が技術士の1次試験を免除され、かつ国際基準を満たした技術者として認められるというメリットとともに理工学部における工学教育の質を高め、学力が保障されプロ意識を持った優れた卒業生を送り出すことで大学の評価も高まることが期待されます。一昨年の審査で知能情報システム学科が既に認定を受け、今秋は機械システム工学科が実地審査を受ける予定です。

最後をお願いを一つ、理工学部同窓生の皆様にはご子弟を佐賀大学に是非お送り下さい。また、比較的若い皆さんで意欲のある方は社会人学生として大学院に入学し、学位を取得することをお考え下さい。



同窓生のものづくり

Vol.3

この特集は、理工学部出身の同窓生（数物情報系、化学系、機械系、電気電子系、建設系の学科・大学院グループからそれぞれ1名ずつ）に執筆をお願いいたしました。綴られる各分野での「ものづくり」やその思いなどを通し、同窓生みなさんの活動への契機や新たな交流の機会となれば幸いです。

数物情報系

「ユーザの声を反映させたものづくり」

インフォサイエンス株式会社
プロダクト事業部 佐伯 昌治
(情報科学専攻・H13年修了)



私が勤める部署では、統合メール監査システムと統合ログ管理システムというソフトウェアを開発・販売しています。

メール監査システムは国産のメールフィルタリングソフトとして最も早くから提供した製品です。現在はお客様の要望を取り込み、メール保存機能も搭載しています。

もうひとつの統合ログ管理システムはあまり馴染みのない製品かもしれません。統合ログ管理システムは、UNIX系のシステムなら標準で搭載している syslog のログやテキストで出力するアプリケーションのログを取り込み、ログのフォーマットに依存せず、統合的にログを管理するシステムです。発売当初は今ほどログ管理の重要性に対する認識もなく、製品のこと以前にログ管理の必要性やセキュリティの啓蒙に近いことからスタートしました。現在では法整備の影響もあり、ログ管理への認識も浸透し、ようやく製品として立ち上げられる状況になってきました。

まだまだ課題も多いのですが、どちらの製品もユーザやシステム管理者の方の要望を極力製品の機能として取り込むようにしています。

学生時代の「研究」よりも、学生時代に先生や学外の研究者の方との「経験」が生きていると感じることの多い職場です。私のできる範囲で今後も努力していこうと思っています。

機械系

「設備診断技術の深化をめざして」

昭和電工(株) 里永 憲昭
(機械工学専攻・H2年修了)

昭和電工(株)は様々な素材を製造する総合化学会社として事業を展開しています。身近な製品としてはパソコンなどのハードディスク、塗料の原料、プラスチックの原料、自動車の冷却装置、医薬品、ビール・ジュースのアルミ缶など多種多岐に渡りますが、かなり私たちの生活に密着した製品の原料を製造しているのが特徴です。その中で私が所属しているのは生産設備を設計、建設、設備管理保全、設備診断を集中管理するエンジニアリング部門です。私自身は設備の維持管理・設備診断を中心に担当しています。

この分野は、機械工学技術の集大成であり、学部のように学んだ全ての学問の応用技術の塊です。私は大野信義先生指導の下、機械基礎学研究室(当時)で潤滑油の研究に取り組んでいました。研究テーマに「ポリマー添加油」と書いていたことから、入社時に石油化学の製品製造プロセスの設計、装置設計を行なう部門に配属されました。当初は誤解が少しあったと思うのですが、これが私の持っている潜在的な興味と合致し、時間の経過を忘れて仕事に没頭しました。プロセスシミュレーション技術の導入時期と重なり、社内の第一人者と看板を掲げたこともありました(誤解でしたが)。その後、設備診断技術への異動となり、老朽化した設備を優しく診守り、寿命を完達させる設備の医者的な仕事をしています。

人と同じで調子が悪いと設備も悲鳴を上げます。油に不純物も混ざります。熱が出て、元気もなくなります。悪いときには折損もします。感覚的な現象に理論的なメカニズム解析を併せて装置の安全安定稼働を支えています。最近では長期連続運転を安定的に完達することが使命とされていることから、「異常兆候の把握中心思想」から「異常を発生させない環境整備思想」への転換が必須となっています。学生時代に取り組んだ潤滑油研究などの基礎学問が今後果たす役割は益々高まるということが近年特に痛感します。

さて、現在私は設備診断技術の深化に深くかかわり特に余寿命予測技術の構築を中心に研究を続けています。この技術は論理的な裏づけと現象の相関が多岐に渡り、一般化が困難とされている分野です。材料劣化・動機器損傷の余寿命予測など機械要素の性能評価になります。チャレンジ精神だけはいまだ衰えず苦しみながら少しずつハードルを越えているのが実情です。学生時代の勉強は会社生活にて大変役立っているということを紹介したく今回執筆させていただきました。今後益々の佐賀大学のご発展を祈念します。尚、今回紹介しました具体的な内容は昭和電工(株)のホームページに私が写真入でメッセージを紹介しています。是非ご参照ください。

(<http://www.sdk.co.jp/contents/recruit/work/interview/7.html>)



「特色あるエクセレント カンパニーを目指して」

新日鐵化学(株)技術本部総合研究所
池田 大佐

(工業化学専攻・H11年修了)

私が勤務する新日鐵化学(株)は、新日鐵グループの化学事業を担う総合化学メーカーです。当社は、創業以来、一貫して製鉄プロセスから副生される原料ソースの徹底活用に努め、芳香族化学の徹底追及と、特殊機能を付与した先進素材の創出を通じて社会に貢献する、「特色あるエクセレントカンパニー」を目指しています。製鋼プロセスでは必然的にコールタールが発生しま

すが、コールタール成分の大半を占めるピッチから得られる石炭系炭素材は、当社の中心であり製鋼用人工黒鉛電極をはじめ、半導体産業から航空宇宙産業など、幅広い分野で利用されています。

私が所属する総合研究所では、炭素材事業の更なる拡大を図り、日々研究開発に取り組んでいます。最近では、特にエネルギー分野に注力しており、私もエネルギー貯蔵用炭素材料の開発を担当しております。私は、佐賀大学在学中、芳尾研究室に所属していましたが、大変珍しいことに、大学時代に身に付けた経験や知識を十分に活かせる職場へ就職することが出来ました。お世話になった先生方や先輩に大変感謝致しております。

今後も佐賀大学で学んだ知識を活かし、頑張っていきたいと思っております。

「建設コンサルタント？」

九州建設コンサルタント株式会社
濱畑 嘉国

(土木工学科・H8年卒業)

「建設コンサルタント？」この仕事について説明しようとした時、相手の要領を得ない表情によく直面します。「国や地方公共団体から依頼を受け、河川や道路の計画・調査・設計を行って...。」説明すればするほど困惑する相手。最近是这样説明します、「工事現場に行かない土木のなんでも屋です」と。

建設コンサルタントは主に土木工事を行うための設計業務をしています。さまざまな仕事の中で特に印象深かったものが、“昭和28年に北部九州地方で起こった河川災害の体験談を取りまとめ記録として後世に残す”という業務でした。なにせ50年前の出来事、当時の様子を知る方も少なく、お会いできた方々はかなりのご高齢でした。協会や出版社の方と一緒に、カメラとICレコーダーを携え九州各地を飛び回りました。

聞き取り調査を通し、多くの方から当時の惨状の様子、そして土木事業への感謝の気持ちに触れることができました。「河川整備が進み、今は少々の豪雨でも安心していただけるのでありがたい。」普段は会社の中で設計書の作成に明け暮れている私ですが、いわゆる「公共事業の意義」を考えさせられる体験でした。



「思いやり」

東芝マイクロエレクトロニクス(株)
上野 正雄

(電子工学科・S52年卒業)



現在横浜に居を構えて慎ましく生活しております。卒業して四半世紀以上過ぎ、思い返せばいろいろな事がありました。何度か窮地に立たされましたがその度に、助けられて来た様に思います。

私の現在の仕事は半導体の設計です。ASICと呼ばれる分野の部品であるIPの設計をやっておりますが、この仕事に就くきっかけも卒業後就職浪人していた私の面倒を親身に見て下さった恩師の石川先生のおかげでした。

半導体を取り巻く環境も20年前と比べると随分と変化し業界のトップを独占していた日本の勢いは見る影もありません。ただ最近私は、弱肉強食のアングロサクソン型が金科玉条の時代はそろそろ終わるのではないかと考えています。日本の非効率なやり方も問題でしたが、アングロサクソン型のやり方も働く者にとっては居心地の良いものではないと思います。(イギリスの方でもアングロ・ソーシャルイズムとか言って新しい流れが生まれている様ですが)トヨタ、キャノンの底力を見ていると、そんな気がします。

思いやりと協力で、しかし必要ならお互い競争し、切磋琢磨するやり方が結局は、良いものを生み出し人々の生活を豊かにしていくのではないのでしょうか。私の場合は、これまでこの思いやりでずいぶん助けてもらいました。群雄割拠のこれからの時代、皆様のご活躍をお祈り申し上げます。

平成17年度菱実会総会の報告

7月30日の総会では、16年度の事業及び決算並びに17年度の事業計画と予算が承認された。

主な事項は、次のとおりである。

1) 17年4月6日に開催された理工学部学生表彰式において、理工学部同窓会長賞を贈呈した。理工学部の7学科に在籍する4年生と3年生の中から各学科1名ずつが選考され、表彰を受けた。これらの学生のさらなる勉学の支援になるという意味で図書券を贈呈した。



平成16年度 佐賀大学理工学部学生表彰式
(平成17年4月6日)

2) 理工学部同窓会のホームページを更に充実するとともに、同窓生に役に立つ情報の提供にも努めていきたいと考えていること。

3) 【キャリアデザイン(自己発見講座)】が、教養教育科目として17年10月から来年2月にかけて開講され、各学部同窓会から2~3名が出て講師を務めることとなったこと。

4) 理工学部同窓会会員名簿は、個人情報保護の観点から、今後は印刷・製本した形では発行せず、同窓会懇親会等の開催などで、同窓会員の氏名、連絡先等の情報が必要な場合は、同窓会事務局に照会してもらえば、一定の手続きのもとに、同窓会懇親会等が開催できるようにすること。

5) 同窓会会報発行及び送付
理工学部同窓会会報『菱の実』第7号を10月頃に発行し、佐賀大学同窓会報『楠の葉』、佐賀大学広報誌『かちがらす』を送る。
なお、理工学部広報誌『ScinTech』は、今年度からは、その内容を同窓会のホームページで知らせる予定である。

6) 会員数の増大
同窓会活動の活性化のために、会員数の増大を図る。

7) 同窓会会員名簿の維持と管理
理工学部同窓会会員名簿は、これまで定期的に印刷製本して発行し、希望者には有償で配布していたが、個人情報保護の観点から、今後は発行しないこととする。

8) しかし、同窓会懇親会等の開催などで、同窓会員の氏名、連絡先等の情報が必要な方は、佐賀大学同窓会事務局に照会すれば、一定の手続きのもとに、同窓会懇親会等が開催できるようにする。

9) 同窓会支部の総会・懇親会活動への参加
各地域での支部活動には、本部からも努めて参加する。

10) 就職援助活動
理工学部学生のための就職懇談会への支援を続ける。

11) 各種情報の提供
ホームページを充実して、技術・研究など同窓生に有用な情報の提供に努める。

12) 佐賀大学及び他学部同窓会との連携
佐賀大学当局、理工学部当局及び他学部同窓会等との連携を深める。

13) 同窓生の表彰
社会で活躍する同窓生が、社会の中で何らかの表彰を受けた場合は、同窓会としても併せて表彰する。身近な同窓生が表彰を受けたことを知った場合(本人を含む。)は佐賀大学同窓会事務局へご連絡願う。

14) その他
学生の将来の進路決定の参考になるように、佐賀大学同窓生が、自分の思いを現役学生に伝える【キャリアデザイン(自己発見講座)】が、教養教育科目として10月から2月にかけて開講されることになった。

15) 講師陣は、主として佐賀大学の12人の同窓生で、各学部から2~3名が講義を担当するが、理工学部からは、田中登氏(46卒・機械)と田中正和同窓会長が、それぞれ1回担当することになっている。

理工学部同窓会4期役員名簿

(任期:平成17年4月1日~平成19年3月31日)

会 長	田中 正和	化学48卒	広 報	池上 康之	生機61卒
副 会 長	中島 道夫	化学47卒	広 報	磯野 健一	工化62卒
副 会 長	椿 忠彦	物理53卒	広 報	後藤隆太郎	土木H6卒
庶務幹事	穂屋下 茂	機械49卒	会 計	太田 里美	数学48卒
庶 務	荒木 宏之	土木51卒	会 計	田口 光雄	電気50卒
庶 務	深井 澄夫	電子53卒	監 事	秋永 正幸	機械45卒
庶務組織	渡邊 健次	物理62卒	監 事	前山 道明	機械46卒
庶務組織	寺山 康教	機械H11卒			

菱実会の動き(平成16年10月~平成17年9月)

- H16.10.1 理工学部同窓会会報「菱の実 6」発行
- H16.12.22 理工学部就職懇談会への支援
都市工学科 講師1名
- H17.1.19 理工学部就職懇談会への支援
都市工学科 講師3名(卒業生)
- H17.2.28 理工学部就職懇談会への支援
機能物質化学科 講師1名(卒業生)
- H17.3.31 理工学部就職懇談会への支援

- 機能物質化学科 講師1名(卒業生)
- H17.4.6 理工学部学生表彰 同窓会より賞品贈呈
- H17.6.8 理工学部同窓会役員会
- H17.6.27 理工学部名簿会議
- H17.7.25 理工学部同窓会役員会
- H17.7.30 理工学部同窓会総会・懇親会/佐賀大学「菱の実会館」
- H17.8.30 理工学部同窓会会報「菱の実 7」編集会議

事務局では会員皆様方からのご寄稿をお願いしています。理工学部に関する昔の思い出や、現在の会社のPRなどございましたら、お名前、卒業年次、在籍学科、現在の会社名などを添えて、事務局宛に連絡下さい。皆様方からの寄稿を心よりお待ちしております。

発行 佐賀大学理工学部同窓会 菱実会
佐賀市本庄町1佐賀大学内
TEL 0952 23 1253 FAX 0952 25 5700
http://dousou.ext.saga-u.ac.jp/ E-mail dosokai@ai.is.saga-u.ac.jp

発行者 田中 正和(S48・化) **編集代表者** 池上 康之(S61・生機)